

故・今井雄介教授を悼む

大阪医科大学元学長名誉教授
藤本 守

2011年7月16日、日本生理学会の評議員を長年務めてこられた今井雄介氏(78歳)の訃報が、同日夕刻、教室秘書(南本 香寿美 女史)から伝えられた。同一研究室で、共に半世紀以上に互り過ごしてきた私にとっては、真に残念至極で、ここに、氏の遺徳を偲び、深く哀悼の意を捧げたい。

ご家族の話によれば、今井氏は前日まで普段と変わらぬ生活を過ごされ、就寝後、朝になっても起きて来られないので、同居中の息子さん達家族が起こしに行った時には、既に冷たくなっておられた由である。肝がん、肺がんなどの治療中の出来ごとであった。

ここに、今井雄介博士の経歴(履歴・功績)を振り返って、追悼の糧としたい。

同氏は、昭和8(1933)年4月21日、滋賀県大津市で生まれ、旧制膳所中学、新制大津高校を経て、昭和34(1959)年3月 京都府立医科大学を卒業された。卒業後1年間のインターンの後、同大学の第一生理学教室の吉村寿人教授の許で、唾液分泌の研究を開始され、昭和40年、「犬顎下腺分泌に関する研究、1. 顎下腺分泌とその電気生理、2. 唾液分泌及び分泌電位に及ぼす灌流液イオン交換の影響と分泌時の腺組織のイオン出納について」の論文により医学博士の学位を取得された。以後、昭和42(1967)年に講師、昭和45(1970)年には、同大学の生理学教室の巨 弘教授の許で助教授に昇進された。昭和49(1974)年11月には大阪医科大学教授となり、平成14(2002)年3月には同大学教授を定年退職され、同時に名誉教授の称号を受けられた。

今井氏の研究では、上記の「唾液腺の電気生理



と分泌機構の研究」、米国 UCLA 留学中の「褐色脂肪細胞の熱産生と電気生理の研究」、大阪医科大学で開拓された「回路網熱力学の研究」など、多数あげることができる。特に、複雑な生体システムのメカニズムのモデル化、並びに熱力学的「パワー釣合則」の成立(理論)を、実験的に証明されたことが、ユニークかつ偉大な点である。具体的には、唾液腺分泌、蛙皮能動輸送、膵臓分泌、膵臓β細胞活動、血液緩衝機構等のシステムモデルとシミュレーション化の成功がある。

エネルギー連結機構を含む生体システムでは、物質の輸送、圧や熱の発生、その他、音、感覚受容など、あらゆる現象で、回路網熱力学の手法でモデル化し、諸係数を持った方程式群を導出して計算・予測への適用に成功されたもので、これはコンピュータ時代に相応しい、いわば、未来の生理学領域への先駆けとなるものであった。

今井氏の業績の中では、1970年代の Davison & Segel: "Introduction to Physiology" (1975, Academic Press) を始め, "Membrane Transport in Biology" (1978, Springer-Verlag), "Transport of Ions and Water in Animal" (1977, Academic Press), "Frontiers of Oral Physiology" (1976, Karger) 等に紹介された論文が光彩を放っている。

1980年2月に喜多見書房から発行された今井雄介, 村上政隆, 吉田秀世 共訳による“回路網熱力学—生物物理系の動的模型化—”は, G.F. Oster, A.S. Perelson, & A. Katchalsky: Network Thermodynamics (Cambridge Univ. Press, 1973) の和訳書であり, 今井教室のその後の研究における理論的基礎を与えた。すなわち, 1980~1990年代の数多くの“腺細胞の微細構造と物質輸送(分泌)機構の研究”には, 理論的にも優れたものが多く, その陰に, 目的に応じた多種の研究法の開拓があった(微小ガラス電極法, 臓器灌流法, 組織熱測定法, インピーダンス測定法, 諸種の化学的定量法, 電子顕微鏡法, 共焦点レーザー顕微鏡法, コントラスト増強ビデオ顕微鏡法, NMR法, グラフ化熱力学手法など)。

学内においては, 大学院委員会, 入試委員長, 実験動物センター長, 機器共同利用センター長などの要職につかれた。その他, 和文誌“大阪医科大学雑誌”編集委員, 英文誌“BOMC”(Bulletin of the Osaka Medical College) 編集長も務められた。学外では, 岡崎国立生理学研究所の運営協議会委員会副会長を務められた。学会活動では, 日本生理学会評議員, 日本膜学会評議員などとして活躍された。また, 平成3(1991)年には, 私と共に第68回日本生理学会大会を主催された他, 平成6(1994)年には, 京大薬学部で, 膜シンポジウム'94

を中垣正幸会長と共に主催された。

教授在任中(昭和49(1974)年11月から平成14(2002)年3月まで)の27年間余に, 多くのお弟子さんを育てられたが, その中には京都府立医大時代からの村上政隆博士(岡崎生理研准教授), 大阪医大出身の中張隆司・准教授, 宮本学・大阪医大教育センター副所長・准教授, 相馬義郎・慶應大学薬理学准教授, 兵庫医大を近年定年退職された佐々木貞夫元准教授や中垣育子元講師, 早稲田大学卒で物理学専攻の今井教室講師となった吉田秀世博士(本年定年)など, その他, 名古屋市在住で非常勤講師として今井氏を長らく助けた森博彦元講師など, 何れもコンピュータの技術面に優れた素晴らしい学者達がおられる。

若い時には, スポーツにも熱心で, 大学にヨットクラブを創設された。今井氏の温厚・誠実・寡黙な人柄を慕って, 多くの学生達が集まった。晩年は, 俳句と絵画が趣味で, 琵琶湖の水辺の風景画などを描いておられた。今井氏のご尊父は柔道八段で昔, 全国制覇を成し遂げ, 後に滋賀県警の師範をする傍ら, 接骨医をなさっていた。また, ご母堂は, 天津絵の伝統文化財保持者として滋賀県から表彰されておられたが, その血を引いておられるらしく, 息子さんの洋介君も画家になられた。

葬儀は, 喪主・長男均氏のもとに, 平成23(2011)年7月17~18日, 浜天津シティーホール, 仏式(浄土真宗)で盛大に挙行された。滋賀医大名誉教授北里宏, 京都府立医大森本武利名誉教授, 吉村學名誉教授らの生理学関係の友人を始め, 窪田隆裕教授他, 大阪医大生理学教室員・昔の学生達など, 多数の参列者があった(仏名: 釈賢雄)。

共に, 故人に対し, 心からご冥福を祈りたい。